

富士フイルム株式会社

写真プリントの光沢性評価方法の標準化により
光沢性という新たな価値をアピール



- 写真プリント業界では様々な印刷技術・製品が存在しており、差別化に向けた新たな取組が不可欠であった。
- 国際学会での研究発表やTCにおける議論を経て、写真・写真反射プリントの光沢性の評価に関するISO規格を開発。「光沢性」という新たな価値軸を創出するとともに、製品の提供価値を再定義することで、消費者に優位性を客観的に訴求する手段を見いだした。

ビジョン・課題認識

- 写真プリント業界では、銀塩方式※1に加えて、インクジェット方式など様々な印刷技術が存在しており、市場の競争環境は激化していた。
- 「銀塩プリント」の「高級感」をキャッチコピーに活用し販売していたものの、「高級感」の根拠が曖昧で客観的指標が求められていた。「高級感」の一要素として「光沢性」という概念で説明する方法を模索した。

ビジネス上の効果

- 光沢性の評価に関するISO規格(ISO/TS 20791-3)を通して、**製品の優位性である高級感を消費者に客観的に訴求する新たな価値軸を確立した。**

戦略の背景にあった狙い、オープン&クローズ戦略、具体的なアクション

- 製品の提供価値を再定義し、その評価方法や基準を標準化することで**製品の優位性をアピール**。競争激化した既存市場において、**新たな付加価値で製品等のシェア拡大**を目指した。
- クローズ戦略**としては、高光沢性を実現する銀塩写真の印刷方法、機器の構造等を特許権、ノウハウで管理し、**提供価値を高効率かつ高性能に実現できる環境を構築した。**
- オープン戦略**としては、写真プリントの「光沢性」という新たな価値軸を見いだすため、**市場での信頼性が高いISOを活用することが有効であると判断し規格化に取り組む**。国際学会ICAI2020にて発表していた光沢性の評価方法に関する**研究結果・論文を活用し、科学的根拠を積み上げることで、標準化に向けたTCの議論を優位に進める**。2023年には写真・写真反射プリントの光沢性の評価に関するISO規格(ISO/TS 20791-3)を開発した。

性能標準・評価方法の
オープン化



銀塩プリント

※1：銀塩方式：乾板や写真フィルム、更に印画紙に、銀塩（ハロゲン化銀）を感光材料として使用する写真術